

溶融亜鉛めっき鉄線産業の現状

〔 令和 4 年 1 1 月 2 4 日
関税・外国為替等審議会
関税分科会特殊関税部会
経 済 産 業 省 〕

熔融亜鉛めっき鉄線の概要

熔融亜鉛めっき鉄線とは

- 亜鉛めっき鉄線とは、伸線工程を経た鉄線に防さびのための亜鉛めっきを施したもの。
- 亜鉛めっきは、「熔融亜鉛めっき」と「電気亜鉛めっき」の2種類に大別され、そのうち「熔融亜鉛めっき」は高温で溶かした亜鉛の槽に鋼材を浸漬させた後、冷却することで亜鉛めっきを施す工程を指す。
(※)電気亜鉛めっきは、鋼材を亜鉛めっき液に浸してから、電気を通すことで亜鉛めっきを施す。
- 熔融亜鉛めっき鉄線の国内生産者は6社。

【熔融亜鉛めっき鉄線の外観】

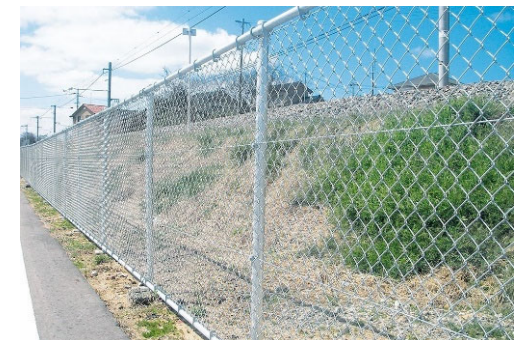


(写真提供:国内生産者)

熔融亜鉛めっき鉄線の主な用途

- 熔融亜鉛めっき鉄線は、主として金網類(フェンス、落石防護柵、落石防護網、じゃかご、クランプ金網、亀甲金網)や各種有刺鉄線、さらにはパルプ結束線等の結束用途に用いられる。

【金網】



(写真提供:国内生産者)

溶融亜鉛めっき鉄線産業の現状

溶融亜鉛めっき鉄線産業の現状(調査対象期間:平成28年度～令和2年度)

- 我が国における韓国産・中国産溶融亜鉛めっき鉄線の輸入量は、平成28年度の29,897トンから令和2年度には43,099トンに増加しており、国内需要量に占める市場占拠率が上昇した。
- 我が国における溶融亜鉛めっき鉄線の需要が調査対象期間を通じて大きな変化がない中、不当廉売された調査対象貨物の輸入量は増加し、国産品の国内販売量の減少及び市場占拠率の下落につながった。
- 調査対象貨物が、国産品を常に下回る価格で販売される中、国内生産者は製造原価の上昇分を十分に価格に転嫁することができず、また、販売機会を失ったことにより、営業利益は調査対象期間中に減少した。

まとめ

- 国内生産者は、安価な韓国産・中国産溶融亜鉛めっき鉄線の輸入の影響から販売機会を失う等により、利潤が悪化するなどの損害を被っている。
- よって、上記産業の現状も踏まえれば、不当廉売関税措置の発動による保護の必要がある。